

# 大阪大学図書館報

Vol.33 No.1 June 1999 (平成11年) 通巻133号

## 目次

- 生命科学図書館へようこそ
- データベース検索システムの新サーバについて
- 情報処理教育センター講義で図書館情報への案内
- お知らせ
  - ・「大宅壮一文庫雑誌記事索引 CD-ROM」等サービス開始
  - ・生命科学分館のホームページをリニューアル
  - ・本館東側仮玄関付近の工事及び周辺への自転車駐輪について
- 会議・日誌

## 生命科学図書館へようこそ

和田 健

小学生の頃、保健室の並びに図書室があって、ここには国語や算数の時間とは違う寛ぎの雰囲気があった。だけど、エジソンやナイチンゲールなどの偉人伝をこの部屋で読むには時間が少なく、借りるには子供手に重たかったり、本の返却期日を間違えた時の罰則はやけに厳しかったことなど、それなりに窮屈だった記憶がある。月に何回か車でやってくる移動古本屋とか僻地向けの移動図書館は、大人向けの本に混ざって漫画や少しくだけた子供向けの本もあって、本に自由に親しめたのはこちらの方で

あった。

中学生の頃に学校の図書室で過ごした記憶は余りない。剣豪宮本武蔵やコナンドイルのシリーズに夢中になったのは、市立図書館へ出入りするようになってからである。その頃、図書館は本を探るところ、本を読み尽くす所であったけれど、顔見知りの先輩の様子をみるとどうやら勉強する所でもあるらしいことを知ったのである。

高校3年生の夏休み、大学受験態勢に入ると市立図書館は開館前から勉強場所の陣取りの

行列であった。ともすれば気がゆるむ家庭環境から脱皮して、競争社会に身を置くことで自分を鼓舞する必要があったのだが、「心は図書館へ勉強に行ってくる」ということであった。

大学生になってみると、大学附属図書館は誠に眩しい所に映った。宿題のレポートの仕上げのために書架から取り出す参考図書の間には専門雑誌のタイトルがかすむほどにあり、興味本位でペラペラとめくるページや行間にそれぞれ違う世界があることを伺いながら、何々学という講座名の枠を越えてもっと多様な専門領域が自在に創造されていることを垣間見たのである。

このように、図書館はいつも身近にあって、その存在は心の拠り所のように愛着を覚えてきたのであるが、私にとっての本当の真価は学位論文作成の時であった。まさかそんなことを審査委員が指摘することは無いだろうと思いながら、そこを突かれたらもう一つ予備試験を追加しなければ説明出来ないという事態に直面した時に「中之島医学図書館で手応えのある論文を昭和初期の解剖学雑誌から発掘し」、思わず「これだ、助かった」と心をときめかした時であった。それにしても、時や場所を越えて、同じことを同じように思い巡らしている研究者が世界には自分以外に必ず一人はいるものだということ、手法が多少変わっても科学的課題の本質は古今東西ほとんど変わらないことに初めて領いてしまったのである。

もう20年以上も前のことであるが、米国での大学生活では、図書館とのパイプこそ大学人の知的生命線であることを十分に認識した。私の所属した歯学部図書館は、各指導教授の講義ビデオやスライドとテキスト等の視聴覚資料が整備されており、学生の要望に応じて講義資料を貸与するので、学生にとっては予習・復習の場そのものであった。医学・歯学・薬学および基礎医学に関する学術情報は Health Science Library での専門雑誌等によるのであった。

ここでは、書架から取り出した参考図書などはそのまま机の上に置いておくだけで、整理は館員が正しい位置に戻してくれたし、さらに有難かったことは、Keywords による参考文献の検索やコピー資料の提供を研究費の文献資料項目で依頼すると、毎月末には文献コピーが机の上にとっさりと送られてくることであった。これならば、世界中で誰がどんなことに焦点をあててしのぎを削っているかが日本にいる時よりも同時的に把握できる感触があって、米国の大学での情報入手はこういうことかと感心することしきりであった。他方で、レポートや論文の作成にあたって、深夜2時頃まで図書館が利用できたこと等は、キャンパスライフの中心が図書館にあったことを懐かしく回顧させるのである。

ところが、現在の大阪大学附属生命科学図書館は米国大学における Health Science Library と全く同じ概念であり、同様の資料検索サービス(SDI サービス)提供が既に実施されており、平成9年に整備された ODINS による電子情報ソフトを介した資料提供サービスとの連結はもはや各研究室の日常作業になっている。生命科学図書館は、“日本の”とか“国際的な”とかの国境を意識させない学術情報空間で、実はこの場こそが大阪大学が誇る自慢ではないかと思うのである。

正面玄関の上にある看板は「大阪大学生命科学図書館」と記されているが、大学組織としては「大阪大学附属図書館生命科学分館」である。しかし対外的には Life Sciences Library と単純明快に訳されなければ意味が通じないから、通称は生命科学図書館である。

この生命科学図書館(6,481 m<sup>2</sup>、4階)は平成3年6月(1991年)に吹田地区に新築され平成3年11月に仮オープン、平成4年4月(1992年)に正式に開館したのであるが、その前身は「大阪大学附属図書館中之島分館」であった。医学部・歯学部および同附属病院が中之島地区

にあった昭和35年(1960年)、医学部と歯学部のそれぞれの図書分館が中之島分館として統合され、医歯を含む生命科学雑誌の購入費用は医学部・歯学部および同附属病院がそれぞれ分に応じて拠出負担し、資料の質的充実を図ってきたのである。

そうした経緯があって、昭和52年(1977年)には文部省から、医学・生物学系の外国雑誌センターに指定され、我が国の研究者の共同利用に供する役割を担ってきたのである。歯学部や医学部がこの吹田地区に移転したことで、中之島分館は医、医病、歯、歯病、薬、微研、蛋白研、細胞生体工学センターを含む8部局の協調支援体制を基本とする生命科学図書館として発足し、現在は同運営委員会において適正な蔵書確保と効率的な情報入手・提供が審議されている。

私は、平成2年から中之島図書館の運営委員として、平成4年から生命科学図書館運営委員として、今日の発展の経緯に携わってきたのであるが、関係する各部局の共同支援態勢が相互に支持されていることがその基盤を揺るぎないものにしていてと理解している。

生命科学図書館は吹田地区では珍しく重厚な外観を誇る建物であるが、中に入ると天井は高く、明るい。開館時間は平日 9:00am - 9:00pm であるが、土曜日は午後 12:00pm - 5:00pm 開館していることは特記されるべきである。

1階は新着雑誌・利用者検索コーナーが広く展開し、ロビーでは学生がいつも数名屯しているが意外に静寂である。2階は外国雑誌、3階は邦文雑誌や単行本が書架に配置されている。ここの特徴は、書庫を持たないで、全ての蔵書がいつでも自由に閲覧できるように開架していることである。4階は電算機・情報ネットワーク・ニューメディアを駆使する研究・教育の場で、Learning Resources Center(LRC)として生命科学に関するビデオソフト等の視聴覚

資料が導入されている。個室(5室)およびグループ室(2室、10数名収容)などは、利用予約希望者数が漸次増加してきており、夜間利用時間延長の希望が寄せられてきている現状である。

学術情報の提供が電子情報化し各研究室のパソコンで容易に入手される今日、こうした自習・演習スペースの確保、利用時間の延長などは、大学院重点化に沿った図書館の在り方として今後さらにその要請が強まると考える。

生命科学図書館は医学・生物学系における外国雑誌センターとして文部省より配分される予算と、関連部局が負担する分担金とあわせて外国雑誌を網羅的に収集しているが、負担する資料費は当然のことながら円安になれば苦境に直面することになる。外国雑誌センターの雑誌は暫く前には5000タイトルあったが現在は漸減傾向に推移している。

昨年秋には円が一時145円を超えようとし、分担金購入雑誌の選定にあたり、さすがに強気の西原前分館長も立ち往生の様子であった。経済不況は図書館の雑誌のタイトル数に直結するものであり、今年度を担当する私にとっても直面しなければならない事態である。今後は、どのようにしてタイトル数を維持するか、良質の雑誌に変換するかについて図書選定作業をしなければならない。

外国雑誌センターとしての具体的な意義は、国内の図書館など他施設からの文献複写依頼が我が国随一であることでも認識される。今日までの蔵書・雑誌の蓄積努力がこれらの要請に応える立場になったのであるが、図書館内部においても文献の共同利用システムを整備してきた効果が迅速な対応として大きく評価されている結果でもある。他方、近隣の大学・研究所・病院および製薬会社・研究所などから毎日50名以上の利用者があることなど生命科学図書館で学外者の利用が急増していることは興味深いことである。すなわち、吹田キャン

スでの図書分館から地域・社会に向かって開かれた生命科学図書館としての風格を備えてきたことは、地域とつながる大阪大学の新しい誇りであり、これを伝統として支えていくために関係部局の一層の協力支持が継続しなければならないのである。

ともあれ、生命科学図書館は大阪大学手造りのもう一つの知的空間であり、学生諸君がこの雰囲気を楽しめることを願っている。



(わだ たけし 生命科学分館長・歯学部附属病院教授)

## データベース検索システムの新 ERL サーバについて

このたび、附属図書館データベース検索システムでサービスしている ERL の新サーバの運用を開始しました。ERL は、SilverPlatter 社が提供する CD-ROM データベースの検索システムで、Medline、Compendex、PsycLIT などが利用できます。

しばらくの間は旧サーバと新サーバの両方を運用します。新しいサーバには新機能もありますので、ぜひお試しください。

### ・ User ID について

図書館 DB 検索システムの ERL システムで運用している DB をご利用の方は、現在ご利用の ID (User Name) と Password がそのまま使えます。ただし、Password を研究室側で設定されたところは、初回ログイン時にもう一度設定する必要があります。

また、現在 ID をお持ちでない方も、ゲスト ID で試用することができます。

### ・ ERL の新機能について

ERL のバージョンアップにより、いくつかの新機能が使えるようになりました。現在利用できるのは、下記の機能です。

#### (1) 図書館 OPAC とのリンク

検索結果の書誌レコードの中に

\*LHM:Osaka University Holding

と表示される場合があります。これは、検索結果レコードの ISSN を持つ雑誌が阪大図書館にあるということを示しています。しかし、その論文が載っている巻号があるとは限りませんし、この表示がなくても図書館が所蔵している可能性もあります。あくまで、目安としてご覧

になり、必ず図書館 OPAC で検索をしてください。

WWWブラウザから検索する WebSPIRS を利用する場合は、直接図書館の OPAC にリンクしています。

検索結果の書誌レコードの中に[Check for holdings]のボタンが表示されます。このボタンをクリックすると、Web 版 OPAC の検索が実行され、別ウインドウに結果が表示されます。

#### 注意：

この OPAC の検索は、検索結果レコードの ISSN をキーにして行われています。そのため、データの不備等の原因により、図書館 OPAC の検索からもれてしまう可能性があります。ここで OPAC にヒットしなくても、もう一度 ISSN 以外のキーで OPAC を検索することをおすすめします。

また、その論文が載っている巻号があるのかどうかご確認ください。この検索によって表示されるデータは包括所蔵で、最新の到着状況まではわかりません。[Current Issues]ボタンを押して、新着状況を見るようにしてください。

#### (2)電子ジャーナルとのリンク

検索結果レコードに Full Text リンクが表示

される場合、クリックするとその論文の Full Text にアクセスできます。(MacSPIRS ではこのリンクはまだ利用できません。次のバージョンが出るまで、Web の方をご利用ください)

現在、FullText リンクしているのは、Springer-Verlag 社の電子ジャーナルです。ID とパスワードの入力を求められた場合は、下記の WWW ページを参照してください。

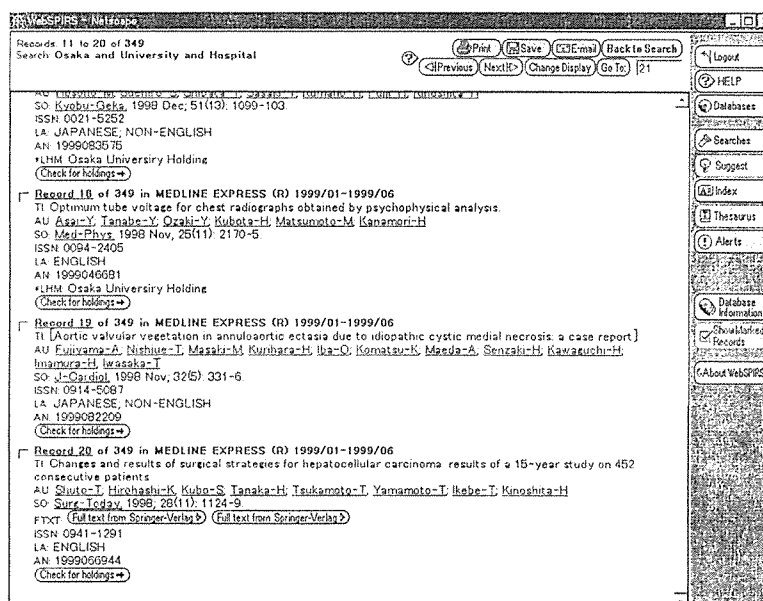
Springer 社発行電子ジャーナルへのアクセス  
(<http://www.library.osaka-u.ac.jp/syskan/service/spr.htm>)

これ以外の電子ジャーナルがトライアル等で利用できることもあります。

また、

\*LHM: " Link to ..."

というように、"\*LHM"のところに雑誌へのリンクがついているものは、電子ジャーナルとして利用できるタイトルで、その雑誌または出版社のページにリンクしています。(現在のところ MacSPIRS では利用できません。)ただし、該当論文が必ず利用できるとは限りません。また、このリンクがついている雑誌は基本的に阪大で所蔵しているはずですので、WebSPIRS からは



(WebSPIRS4.1 の検索画面)

[Check for Holdings]ボタンをクリックして OPAC で検索することもできます。

電子ジャーナルとのリンクについては現在まだ設定中で、今後徐々に増やしていく予定です。

### (3)検索結果の e-mail 送信

WebSPIRS4.1 のみの機能です。検索結果の表示画面で、画面上に[Print]、[Save]と並んで[E-mail]というボタンがあります。ここをクリックすると、検索した結果を、電子メールで任意のメールアドレス宛に送信することができます。この機能を使えば、研究室から離れた場所でデータベースを検索した時など、検索結果をプリントアウトしたり、フロッピーに保存したりしなくても、自分のメールアドレス宛に送信しておいて後で見ることも可能になります。

### ・検索ソフトについて

今までと同様、WWWブラウザからも、又は専用クライアントソフト（Windows、Macintosh）からも検索できます。

WWWブラウザからの検索の場合は、下記のアドレスにアクセスして下さい。

<http://erl4.library.osaka-u.ac.jp:8590/>

専用クライアントソフト WinSPIRS で ERL の新しい機能を使うためには、WinSPIRS4.0 をダウンロード、インストールする必要があります。詳細については下記のWWWページを見て下さい。（大阪大学内からのアクセス専用です。）

<http://www.library.osaka-u.ac.jp/syskan/database/eriset.htm>

また、今後機能が追加・変更される可能性もありますが、その場合はWWW等でお知らせします。

## 情報処理教育センター講義で図書館情報への案内

本年6月、情報処理教育センターの講義「情報活用基礎」の一部で、図書館から提供している情報の利用について職員より説明を行う時間が、延べ6回、3週間にわたり設けられました。内容はOPACの検索と図書館の利用、学術情報センターのWebcatの検索方法などで、短時

間ではありましたが、図書館職員の情報教育への参加の初の試みとなりました。

図書館では、今回の試みを踏まえて、今後の情報教育への図書館の協力について、検討を重ねていきたいと考えています。

## ■■■■■ お知らせ ■■■■■

### ○本館で「大宅壮一文庫雑誌記事索引 CD-ROM」等サービス開始

本館2階の情報検索コーナー（参考カウンター前）で、新しいデータベースのサービスを始めました。

スタンドアロンでサービスを開始した CD-ROM データベースとしては、「大宅壮一文庫雑誌記事索引 CD-ROM」があります。

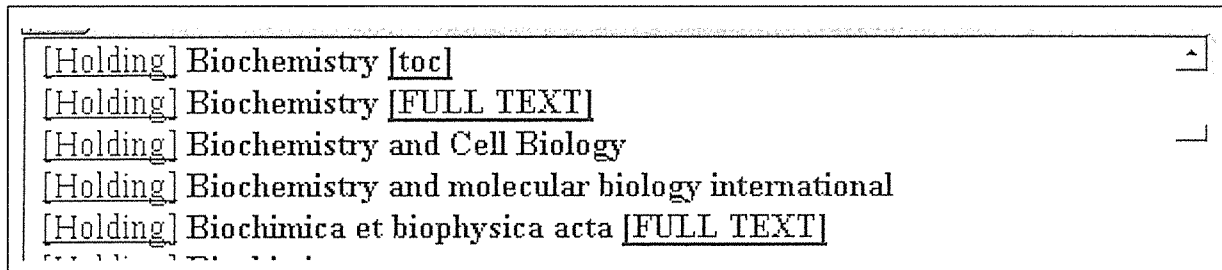
大宅壮一文庫は、ジャーナリスト大宅壮一（1900-1970）の蔵書を元に設立された私立図書館です。学術機関ではあまり収集されていない、週刊誌等の一般商業雑誌を中心としたコレクションと、独自の分類法による記事索引で知られており、利用者の7割がマスコミ関係者と言われています。

その「大宅壮一文庫雑誌記事索引」の1992-1997年の分をデータベース化したものが、このCD-ROMです。1992-1996年版は252誌、索引数約51万件、1997年版は138誌、索引数約12万件のデータを収録しています。なお、『大宅壮一文庫雑誌記事索引』冊子体（1985-1995年分）も本館参考カウンター横の書架に配架してあります。

この他、Encyclopedia Americana のCD-ROM版等も提供を始めました。

#### ○生命科学分館のホームページをリニューアル

このたび生命科学分館のホームページ（<http://www.library.osaka-u.ac.jp/seimei/>）をリニューアルしました。新しくなったホームページでは、外国雑誌一覧のサービスを始めています。



[toc]は目次、[FULL TEXT]はオンラインジャーナルへのリンクです。

[Holding]ボタンを押すと、その雑誌の到着/所蔵状況が分かります。

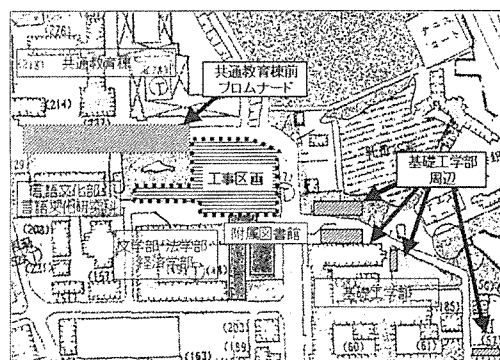
従来通りの、図書館からのお知らせ、OPAC検索、新着雑誌リスト、製本状況、相談・調査等のサービスのほか、投稿規程集や医学関連情報等へリンクを張り、便利なホームページにリニューアルしました。どうぞ、ご利用下さい。

### 本館東側仮玄関付近の工事及び周辺への自転車駐輪について

現在本館東側仮玄関には、仮設の階段がついていますが、間もなく本格的な階段及びスロープの工事が始まります。工事の影響で周辺の通行に影響が出るかもしれませんが、ご協力をお願いします。詳しい日程については、図書館ホームページからお知らせします。

また、工事区域となる本館東側道路には、いつも大量の自転車が駐輪、あるいは放置されています。図書館周辺は、本来駐輪禁止です。現状では歩道や車道の一部にまで自転車が置かれているため、工事や通行の妨げになり、また大変危険です。自転車は所定の駐輪場に置くようにお願いします。

図書館周辺の正規の自転車置き場



## ●●●● 会 議 ●●●●

### 体系検討小委員会

3. 5 (金) 10:00-10:37

1. 電子図書館システム専門委員会の設置について審議し、原案どおり承認された。

### 豊中地区運営委員会

3. 12 (金) 13:00-13:20

1. 次期豊中地区運営委員会委員長候補を選考の結果、法学部村上教授が選出された。

### 図書館委員会

3. 12 (金) 13:30-14:40

1. 平成11年度事業費の予算要求について審議し、原案どおり承認された。
2. 平成11年度新規概算要求について審議し、原案どおり承認された。
3. 研究開発室室員の選考について審議し、原案どおり承認された。
4. 電子図書館システム専門委員会の設置について審議し、原案どおり承認された。

### 分館長会議

4. 12 (月) 10:00-11:20

1. 分館長、豊中地区運営委員会委員長の交替により、新メンバーによる当面の課題など意見交換を行った。

## ●●●● 日 誌 ●●●●

H11. 3. 5	体系検討小委員会	(本館)
3. 12	豊中地区運営委員会	(本館)
3. 12	図書館委員会	(本館)
4. 12	分館長会議	(本館)
4. 27	近畿地区国立大学図書館協議会	(京都大学)
4. 27	近畿地区国公立大学図書館協議会企画委員会	(京都大学)
4. 28	近畿地区医学図書館協議会例会	(和歌山県立医科大学)
5. 21	日本医学図書館協会総会	(アクロス福岡国際会議場)
5. 26	国立大学附属図書館事務部課長会議	(東京医科歯科大学)
5. 26	国立大学図書館協議会常務理事会	(東京大学)
5. 27	国立大学図書館協議会理事会	(東京大学)
5. 28	国立大学図書館協議会と学術情報センターとの業務連絡会	(学術情報センター)